

テーマ設定のコツ

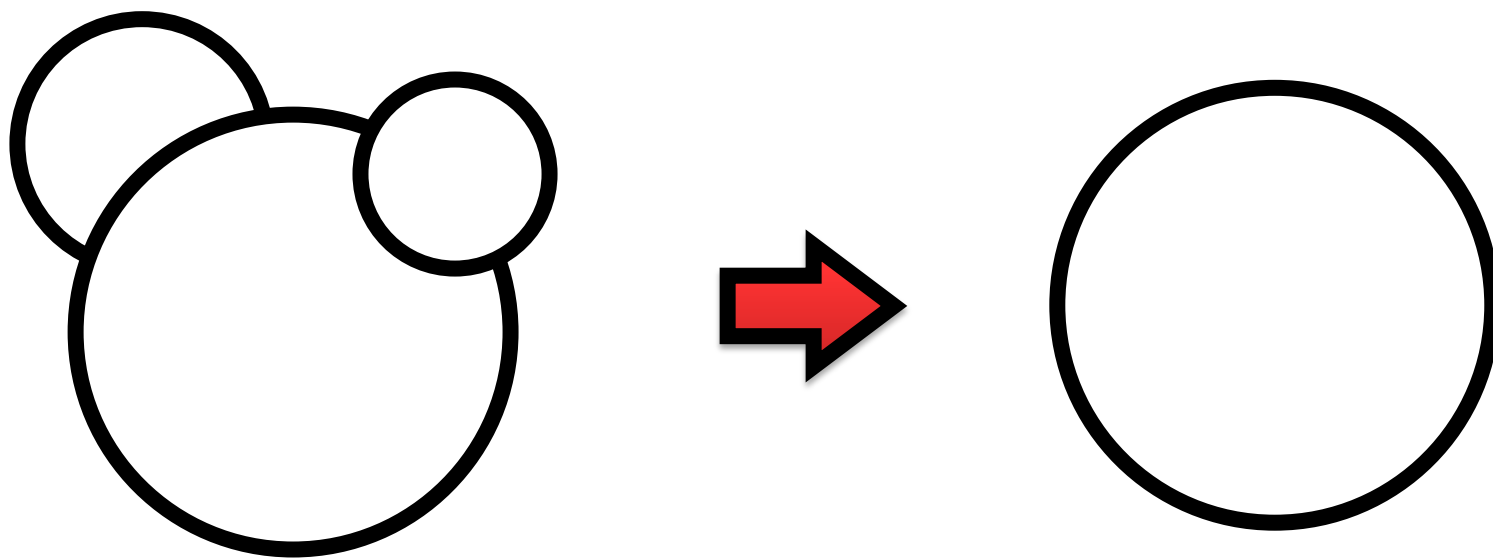
発想を引き出しやすいテーマの作り方

アイデアワークの成否の8割は
テーマ設定の良し悪しに依る。

よいテーマを設定するには
どうすればいいだろうか？

1

1つ化



問題を1つにする

人は複数の問題を同時に考えると十分に本来の思考能力を使うことができない。
複数の問題を包含している場合は、どんどん分解し、一番重要な問題1つを発想のテーマにする。

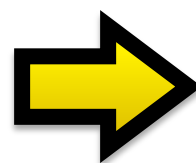
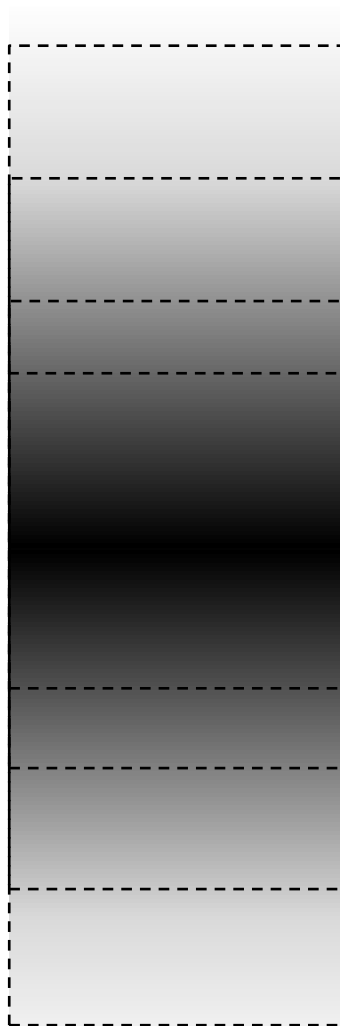
なお、必ずしも「削る」方向にしなくてもよい。
問題を包含するように、大きな問題1つにする場合や、
その途中で、中途半端に、ある部分は剥ぎ取り、ある部分は問題を広げて1つにする場合もある。

この操作で、最も大事なことは、当初の問題を、より良く近似できるように「1つ化」をすることである

2

制限

広すぎる条件範囲



範囲を制限する

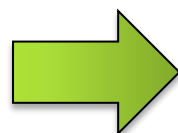


問題のパラメータが、非常に範囲を含むと、人は考えにくい。そういう場合は積極的に、ある程度の狭い幅に限定してやる。あいまいな表現や条件を具体的な表現や条件に狭くしてやる。そうすると、発想力は強く引き出すことができる。当然、恣意的に限定してしまうので、当初の条件よりも狭い「特殊解のような状態で解く」感じになる。絞り方を、更に2通りぐらいかえ、それぞれで、アイデアを出す。3つぐらいの限定範囲で、特殊解（アイデア）が得られたら、当初の広い条件にむけて、アイデアを拡張する。この辺は、どう、制限をかけるかの頃合いは、経験値によるので、経験が要るが、アイデアが出そうな位、条件を狭めていくと、次第に「発想しやすい頃合いの狭さ」感覚がつかめてくる。

3

テーマ定型文

世の中のアイデア出し



テーマ定型文

〇〇するには、
どうすればいいか？

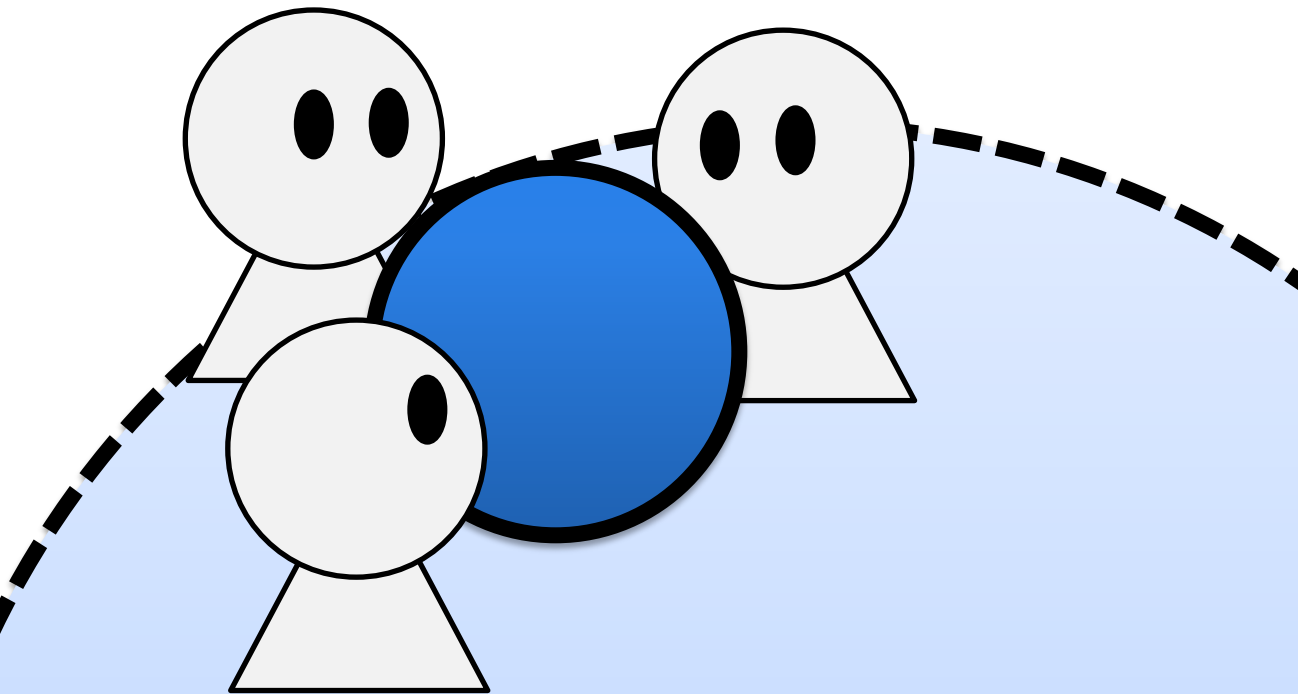
世の中のアイデア出しは、平均すると、9割は問題解決（1割は新規構想）。問題解決型のアイデア出しの場合は、発想を引き出しやすいテーマ文は、一定のフォーマットで表されることが分かっている。テーマ定型文は「〇〇するにはどうすればいいか」というもの。これに当てはめ、テーマを書こうとすると良いテーマが作成できる。どうしても当てはまらない場合は「1割＝新規構想」の場合と、テーマが十分に検討されていない場合がある。後者の場合、テーマ定型文に強制的に当てはめると「どうも、おかしい。それが問題ではないよね？」ということに気が付く。テーマ定型文で書くことにはそのような効果もある。なお、1割（新規構想型）は、フォーマットは未確立。しいて言えば、「新しい〇〇のアイデア」というフォーマットであるが、そうでない良いテーマ文もある。

4

オーナーシップ

オーナーシップ

「それは、本当に
我々の問題だろうか？」

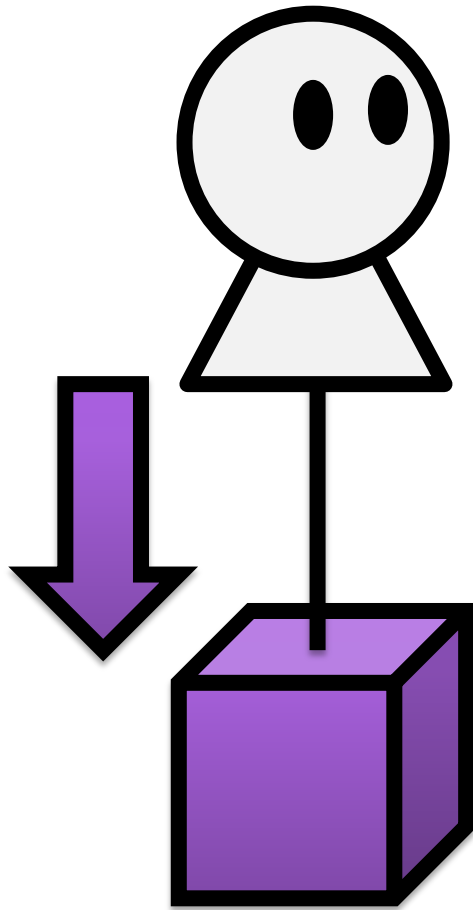


我々の所有している問題ではない、と感じた場合には、人はアイデアを出すことを、途中で断念してしまう。

初めにオーナーシップを持っている問題であるかを確認することで、チームの推進力を引き出せる。なければテーマを再設定するか。オーナーシップがあるようなメンバーに変える。

5

下にひく力分析



下に引く力

「何があなたを
制止するのか？」

大抵は問題を解決したいという気持ちが働いてるが、にも関わらず、問題は問題のまま残っている。そこには問題が昇華することを阻む「重たい何か」がある。一段下がってまずはこれを解くためのブレストをする。実際は、重たい何かにも重たい重しがあることがあり下へ下へといくことになる。下がっていき、一番下から問題解決にあたる。

まとめ

テーマ設定のコツ

1. 1つ化
2. 制限
3. テーマ定型文
4. オーナーシップ
5. 下にひく力分析

(4と5は、やや上級者向け)